



創立1880年

〒135-0016  
東京都江東区東陽2-2-20  
Tel 03-3615-5562  
URL http://tokyo.ymca.or.jp  
発行所 公益財団法人  
東京YMCA  
発行人 菅谷 淳

# 東京YMCA 1.2

2018年

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

2018年新春

## 新しいブランドと歩む

### YMCAの価値を多くの人に



公益財団法人東京YMCA  
評議員会会長 古賀 博

せんが、活動を通じて物の数々が与えられてきたこと、感謝の思いを強くわけていく。同時に、わりの深化など、私の人間形成に大変に大きな影響を与えたことは間違いのない事実です。この時、ブランドコンセプトのValue(価値)を通じて自らとYMCAとの関わりを振り返り、記された言葉の通り

デザインをつなげて行くことを。東京YMCAの使命は3つの重要な部分から成り立っています。「青少年の全人的育成」、「地域社会への奉仕」、「公正で平和な世界の実現」です。日々YMCAの現場で起きている数多くの「みつかる」「つながる」「よくなっていく」ことをこの3つ

新しい年が明けた。誰もが希望をもって迎えたい新年も、私たちの生きる不透明な時代、「希望」の二文字は遥か遠くに霞んで見えにくい▼不安が心を覆う時、ひとりの青年の姿が心に浮かぶ。「東京基督教青年会」、つまり東京YMCA創設会員のひとり、私の所属教会の初代牧師でもある小崎弘道である。明治という大きな変化の時代、キリスト者となったが神学校卒業後も赴任する教会はなく、伝道地に向かう旅の途中に立ち寄った東京で、想像もしなかった活躍の場が備えられた。彼は「青年」という造語に、揺れ動く時代を拓く新しい意味と希望を込めた▼日本のYMCAは昨秋ロゴを一新し、新たな歩み始めた。鳥が飛び立とうとする瞬間をモチーフにしたという。



新しい年が明けた。誰もが希望をもって迎えたい新年も、私たちの生きる不透明な時代、「希望」の二文字は遥か遠くに霞んで見えにくい▼不安が心を覆う時、ひとりの青年の姿が心に浮かぶ。「東京基督教青年会」、つまり東京YMCA創設会員のひとり、私の所属教会の初代牧師でもある小崎弘道である。明治という大きな変化の時代、キリスト者となったが神学校卒業後も赴任する教会はなく、伝道地に向かう旅の途中に立ち寄った東京で、想像もしなかった活躍の場が備えられた。彼は「青年」という造語に、揺れ動く時代を拓く新しい意味と希望を込めた▼日本のYMCAは昨秋ロゴを一新し、新たな歩み始めた。鳥が飛び立とうとする瞬間をモチーフにしたという。

### ブランディング推進にあたり



公益財団法人東京YMCA  
総理事/代表理事 菅谷 淳

昨年10月に発表されたYMCAのブランドコンセプト。そこに記されているのは「みつかる。つながる。よくなっていく。」の3つの言葉。英語では「Encounter, Connect, Transform」と表記されており、直訳すれば「出会い」「つながり」「変化・転換」となります。日本語のスピーカーと英語のスピーカーとの間に深いつながりを生んでいきました。YMCAを通じての交わりは次第に拡大し、日本全国、さらには世界へも及び、世代

平和が脅かされるようなニュースが多い中、会員の皆様の温かいお支えと神様の導きにより、2018年という新しい年を迎えられました。心より感謝申し上げます。今年はいよいよ中期計画の3カ年目に入ります。会員職員力を合わせて

「みつけて、つなげて、よくなっていく。」という行かねばならないのではないかと思っています。この「受身」でいては出来ないと思っております。話が少し飛躍しますが、現代は資本主義も社会主義もそして民主主義も「制度疲労」を起す。そしてこれらを超え

あるのではないかと思っています。YMCAは実に色々な活動をしていまして、それぞれの活動の中でさまざまな組織や仕組みを持ち、必要な「決定」を行っています。それが、それらを包摂して皆が平和に暮らせる社会をどのように作って行きたい、その方が良いと思われないか？新しい年における新しい年を共に歩み出したいと願う。

### みつけて、つなげて、よくなっていく。



学校法人東京YMCA学院  
理事長 徳久 俊彦

昨年10月より日本全国のYMCAで「ロゴ」が新しくなり、「みつかる。つながる。よくなっていく。」がスローガンとなりました。でも私は

「みつけて、つなげて、よくなっていく。」という行かねばならないのではないかと思っています。この「受身」でいては出来ないと思っております。話が少し飛躍しますが、現代は資本主義も社会主義もそして民主主義も「制度疲労」を起す。そしてこれらを超え

あるのではないかと思っています。YMCAは実に色々な活動をしていまして、それぞれの活動の中でさまざまな組織や仕組みを持ち、必要な「決定」を行っています。それが、それらを包摂して皆が平和に暮らせる社会をどのように作って行きたい、その方が良いと思われないか？新しい年における新しい年を共に歩み出したいと願う。

あるのではないかと思っています。YMCAは実に色々な活動をしていまして、それぞれの活動の中でさまざまな組織や仕組みを持ち、必要な「決定」を行っています。それが、それらを包摂して皆が平和に暮らせる社会をどのように作って行きたい、その方が良いと思われないか？新しい年における新しい年を共に歩み出したいと願う。

# 東陽町センターが生まれ変わります

## コミュニティセンターを強化

### 地域ニーズに応じていく

【東陽町センター】 江東区東陽2-2-20  
\*1月より改修工事をし、4月から以下の配置となります

7階	フィットネスクラブ ゴールドジム	テニスコート (東京YMCAが受託運営)
6階		ジム/スタジオ
5階		ラケットボール/スカッシュコート
4階		プール/体育館 (子ども水泳は東京YMCAが受託運営)
3階		スポーツ施設受付 (ゴールドジム/東京YMCAウエルネス東陽町)
2階	インターナショナルスクール (T Y I S) 社会体育・保育専門学校 (分教室)	
1階	キッズ英語/キッズガーデン (英語幼稚園 K G) 東陽町コミュニティセンター事務室	

東京YMCAは12月29日で東陽町ウエルネスセンターの運営を終了しました。今後は改修工事を経て「フィットネスクラブゴールドジム」が同施設を運営します。

東陽町センターの館内は様変わりしますが、下記の5部署は従来よりもさらに連携をとり、地域のニーズに応える働きを目指します。各部責任者にその抱負をききました。



4月から新しく始まる子ども食堂

#### 東陽町コミュニティセンター

#### 会員とともに、新しい活動を展開

1988年に現在の東陽町センターを開設して30年近くが経過しようとしています。その間多く

の皆様のお支えにより、地域の中にあるコミュニティセンターとしてさまざまな活動を展開し、

実績を重ねながら信頼を得てまいりました。今年4月より全館がYMCAという従来の形からは変化しますが、より積極的に地域に必要とされるYMCAになるべく、コミュニティセンター機能を強化して参ります。今までは一つの部門で活動が完結されがちでしたが、東陽町にある社会体育・保育専門学校に

「下町子どもダイニング」を開始すべく会員の方々と一緒に準備を進めております。一緒にそのような夢をたくさん形にしていきたいと願っております。  
(会員部 沖利柯)

【社会体育・保育専門学校】 江東区東陽2-2-15



7階	にほんご学院
6階	
5階	
4階	社会体育
3階	・保育専門学校
2階	
1階	

\*公益財団法人東京YMCA本部事務局 (総務部、財務部、人事労務部、賛助会事務局、IT室、国際協力部、広報室、資料室) と会員部は1月22日、下記に移転します。

【新住所】 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2丁目3番18号 日本キリスト教会館6階  
◇本部事務局代表番号 tel. 03-6302-1960/Fax. 03-6302-1966  
◇会員部直通 tel. 03-6278-9071/Fax. 03-6278-9072



東京YMCAは1917年に日本で初めての室内温水プールを備えた総合体育館を建設し、さまざまなスポーツを紹介し、広めてきました。残

#### ウエルネスの理念、追求し続けて

#### ウエルネス東陽町 (東陽町ウエルネスセンター)

念ながら100周年を迎えた2017年12月29日、体育館の一つである東陽町ウエルネスセンターは、開設から30年における運営を終了しました。今後はフィットネスクラブ「ゴールドジム」が同施設で運営しますが、東京YMCAは「ウエルネス東陽町」と名称を変え、子どもの水泳クラスと、テニスクラス(子ども成人)のみゴールドジムより委託を受け、引き続き

その後も「ウエルネス」は、身体的健康だけでなく社会的・精神的にも「より良く生きる」ことを目指す理念です。今後もこの理念を大切に、東陽町の各部門と一層の連携を取りながら、地域の皆さまの楽しく豊かなウエルネス・ライフのために活動を展開してまいります。  
(東陽町センター館長 松本竹弘)



#### 「平和を作る人」を育てる

#### インターナショナルスクール/英語教室 / 英語幼稚園 (キッズガーデン)

東京YMCAインターナショナルスクール(T Y I S)は現在、小学1年生から中学2年生(8年生)まで120人の生徒が英語で教育を受けています。またインターナショナルキッズガーデン(英語幼稚園)には約50人の子どもたちが在籍しています。いずれも外国籍の子どもたちだけでなく、海外から帰国した日本人の子

もたちや、これから海外に行く子どもたちが増えてきています。2020年の教育改革では、日本の大学のセンター試験が廃止され、英語は読む、書く、聞く、話すの4技能を重視した試験に移行します。また小学5年生から週2時間年間70時間の英語の授業が義務化されます。日本における英語教育が大きく変わろうとしており、インターナショナルスク

ールや英語教室の役割もますます重要になってくると思われます。グローバルな人材育成の必要が世の中では言われていますが、YMCAの英語教育の目的は「平和を作り出す人を育てる」ことにあります。自分とは異なる文化や考えを持つ人々と共に生きることが出来る人こそが、グローバルな人間であり、英語はそのための重要な手段です。東京YMCAインターナショナルスクールおよび英語教室は、そんなYMCAのミッションの下、130年の歴史の上に成り立っています。  
(校長 松本教実)

またYMCAには、これまで培ってきた江東区の地域とのつながりと、世界120におよぶ国と地域にあるYMCAとのネットワークがあります。今後はこれらをつなぎ合わせ、世界レベルで人と人、地域と地域を結ぶネットワーク「グローバル・ポジティブネット」を作ることを目指します。東陽町センターに来る人が、新しい文化、価値観に出会い、新たな自分が見つかり、世界とつながり、皆がよくなる、そんなかけがえない場所になっていくことを願います。

### 社会体育・保育専門学校

#### 地域の課題に取り組む学校に



社会体育・保育専門学校のノウハウを活かして開校は1980年、急増したスポーツクラブの指導者養成のため、YMCA 38年、民間のスポーツクラブ等さまざまな施設にトレーナーやインストラクターを輩出し、日本のスポーツ事業の発展に寄与しています。2003年には保育科も増設し、現在は約300人の学生たちが学んでいます。

2003年、神田から東陽町に校舎を移転しましたが、開校当初から実習施設として東陽町を利活用していましたので、学

校の歴史のほとんどをこの地で歩み、皆さまに支えられながら学生を社会に送り出してきました。その間に当校は地域に向けて、夏休みの小学校で行われるプール指導のお手伝いや、子育て支援活動のお手伝い、また東陽町コミュニティセンターで行われる活動、キャンプなどのボランティアなどを行っています。

2011年10月に法務省より認可を受けて開校したほんご学院は、現在アジアを中心とした9カ国から160名の学生が日本語を学ぶ学校として運営されています。学生たちの学習の目的は、日本での進学、生活、就職などさまざまです。日本の社会の中で生きていくために必要な「使

### ほんご学院

#### “YMCAの総合力”を活かして



2011年10月に法務省より認可を受けて開校したほんご学院は、現在アジアを中心とした9カ国から160名の学生が日本語を学ぶ学校として運営されています。学生たちの学習の目的は、日本での進学、生活、就職などさまざまです。日本の社会の中で生きていくために必要な「使

える日本語”を身につけるために、教師たちは日々研究を重ねて授業を構築し、関東圏のYMCA（横浜、在日韓国、東京）の日本語学校とも連携して研修を行ったりしています。

さらに、この東陽町の地に根ざして30年の活動をしてきた東陽町コミュニティセンターの存在は、ほんご学院に他の日本語学校にはない特徴を生み出してくれています。毎年行われる季節ごとのイベントなどはボランティアとして日本人と一緒に活動したり、東

陽町センターを会場として行われるYMCAのサポートクラブ、「ワイズメンズクラブ」の定期会合などへもゲストとして招いていただき、日本語のスピーチや楽しい会話の機会を得られるだけでなく、奨学金をいただくなど、さまざまな面から留学生をサポートしていただいています。今後は、さらに緊密な連携を取りながら、留学生にとっても日本社会に貢献できる学校を目指していきます。

(校長 小野実)

### 国際プログラム報告会・クリスマス祝会

#### 国際事業の意義 語り合う



↑国際プログラム参加者の体験談を聴く来場者たち。語る側も聴く側も良い機会になりました。

東京YMCAは青少年の国際理解・異文化共生への関心を高め「地球市民」を育てることも目的に、さまざまな国際プログラムを行っています。募金活動もしており、会

員や学生、園児、キャンブ参加者のほか、街頭募金では通行人にも協力を仰いでいます。12月9日に東陽町センターで開催された恒例の「国際プログラム報告会

報告会は4つのブースに分かれ、今年度の国際プログラム参加者を囲み、その体験談（失敗や感動）を聞くという趣向で行われました。NYフロストバレーYMCAの長期キャンプカウンセラ

1. バングラデシュYMCA支援サークル「チョトシヨブノ」。北京YMCAからの山中湖キャンブ。にほんご学院生の日常体験。どのブースも熱心な話し声や笑い声で賑やかでした。報告した参加者にとっても、考えを整理する機会になったと思います。

盛り上がったところでクリスマス祝会に移りました。皆で会場のセッティングをし、持ち寄りの各国料理を囲んで懇親のときを楽しみました。江東センターの萱沼和也君

「この国際クリスマス祝会は、活動や拠点の枠を越えて交流し、YMCAの国際性を身近に学ぶ数少ない機会です。来年はさらに多くの方に参加いただきたいと思っています。」

20周年クリスマス祝会を山手センターで開催。liby参加者や運営委員、ワイズメンズクラブメンバーなど42人が参加しました。

第1部の礼拝では、今年も平良愛香牧師（日本基督教団三一教会）がお越しくださり、クリスマスメッセージ「宿屋はどこや」が話されました。ヨセフとマリアが町の宿屋を回りながら宿泊を断られるという場面を寸劇も交えながら、数人のグループに分かれて「断りの理由」を考え、その場で演じました。

第2部は祝会。持ち寄りの料理やお菓子を囲み、暖かなひとときを過ごしました。昨年度からliby・高等学院のためにチャリティーコンサートを行ってくださったという飯野さんのヴォーカル演奏、参加者によるおもしろエピソードの紹介、プレゼント抽選会、2017年の活動スライドショーなどお楽しみが盛りだくさん。元スタッフの小倉哲氏と秋田正人氏からは、20年に至るまでの印象深い思い出が語られました。また、長年にわたるlibyを支援くださった「東京たんぼぼYサービスクラブ」からは、20周年を祝して8万円の寄付をいただきました。

この20年でフリースクールやフリースペースなどの多様な学びの場や居場所が増え、時代は移り変わっていますが、誰もが生きやすい世の中を目指して今後もスタッフ一同模索していきたく改めて決意をする一日となりました。

ナ、近隣小学校の絵画展、江東区東陽地区少年団体連合会による子ども遊び場、ゴスペルコンサート、バザー、抽選会など、地域の方々の参加・協力により、終日にぎやかに開催することができました。おかげさまで売上げは約60万円。国際協力募金、震災復興支援、地域活動のために用いさせていただきます。

なお来年度は、3、7階のスポーツ施設を東京YMCAに代わって「フットネスクラブ」が運営しますが、当日いらした先方の担当者は「ぜひこの伝統を引き継ぎたい」と宣言。来以降は一緒に実施することになりました。いまや地域の風物詩ともなったこのイベント。今後もさらなる発展が期待されています。

(国際委員長 浅羽俊一郎)

(職員 小宮優子)

(職員 小宮優子)

(職員 小宮優子)

(職員 小宮優子)

(職員 小宮優子)

(職員 小宮優子)

### 不登校など青少年の居場所として20年



### libyクリスマス祝会

12月2日、「liby 20周年クリスマス祝会」を山手センターで開催。liby参加者や運営委員、ワイズメンズクラブメンバーなど42人が参加しました。

第1部の礼拝では、今年も平良愛香牧師（日本基督教団三一教会）がお越しくださり、クリスマスメッセージ「宿屋はどこや」が話されました。ヨセフとマリアが町の宿屋を回りながら宿泊を断られるという場面を寸劇も交えながら、数人のグループに分かれて「断りの理由」を考え、その場で演じました。

第2部は祝会。持ち寄りの料理やお菓子を囲み、暖かなひとときを過ごしました。昨年度からliby・高等学院のためにチャリティーコンサートを行ってくださったという飯野さんのヴォーカル演奏、参加者によるおもしろエピソードの紹介、プレゼント抽選会、2017年の活動スライドショーなどお楽しみが盛りだくさん。元スタッフの小倉哲氏と秋田正人氏からは、20年に至るまでの印象深い思い出が語られました。また、長年にわたるlibyを支援くださった「東京たんぼぼYサービスクラブ」からは、20周年を祝して8万円の寄付をいただきました。

この20年でフリースクールやフリースペースなどの多様な学びの場や居場所が増え、時代は移り変わっていますが、誰もが生きやすい世の中を目指して今後もスタッフ一同模索していきたく改めて決意をする一日となりました。

ナ、近隣小学校の絵画展、江東区東陽地区少年団体連合会による子ども遊び場、ゴスペルコンサート、バザー、抽選会など、地域の方々の参加・協力により、終日にぎやかに開催することができました。おかげさまで売上げは約60万円。国際協力募金、震災復興支援、地域活動のために用いさせていただきます。

なお来年度は、3、7階のスポーツ施設を東京YMCAに代わって「フットネスクラブ」が運営しますが、当日いらした先方の担当者は「ぜひこの伝統を引き継ぎたい」と宣言。来以降は一緒に実施することになりました。いまや地域の風物詩ともなったこのイベント。今後もさらなる発展が期待されています。

→白熱の抽選会

→ワールドジム担当者（写真右）に菅谷淳東京YMCA総主事からYMCAのTシャツを贈呈。